

学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会
において了承（平成 23 年 11 月 4 日）

「ロードマップ」の改訂について

1. 「ロードマップ」の改訂

科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会（以下、作業部会という。）では、純粋に科学的視点から評価を行った日本学術会議の「マスタープラン 2010」を踏まえ、大型プロジェクト推進にあたっての優先度を明らかにする観点から、各研究計画について、評価結果と主な優れた点や課題・留意点等を整理した「ロードマップ」（平成 22 年 10 月 27 日）を策定した。

「ロードマップ」は、「学術研究の大型プロジェクトの推進について（審議のまとめ）」（以下、「審議のまとめ」という。）において「マスタープランの改訂を踏まえて、本ロードマップも定期的な改訂を行っていくこととする」としている。

今回、マスタープランが改訂された（以下、改訂後のマスタープランを「マスタープラン 2011」という。）ことを踏まえ、本作業部会において、「ロードマップ」の改訂について審議を行う。

2. ロードマップの改訂の進め方

「ロードマップ」の改訂について、以下のような方針により行うこととする。

（1）評価の進め方

① 「マスタープラン 2011」において新規に追加された計画（10 計画）

「マスタープラン 2011」に盛り込まれた研究計画に対し新たに評価を行い、「ロードマップ」に位置付けることとする。

【「マスタープラン 2011」に新規に追加された 10 計画】

分野	研究計画
人文・社会科学	社会科学統合データベース・ソリューション網の形成
生命科学	シームレス脳科学の創成を目指した計測・操作研究プラットフォームの設立
	国際宇宙ステーションにおける宇宙生命科学研究計画
	ヒトプロテオゲノミクスネットワーク：ヒト生命と病気の解明を目指す研究体制の構築
	システム構造生命科学研究開発事業
	先進歯学研究拠点の形成
エネルギー・ 環境・地球科学	広領域地熱システムの理解とエネルギー・資源の抽出
	次世代環境調和型海洋工学の創成
情報学	e-サイエンスに向けた革新的アルゴリズム基盤
	国民生活を支える実空間型情報学基盤の研究

②「マスタープラン 2010」掲載の計画の分化等による転換が行われた計画（5 計画）

「ロードマップ」における評価を斟酌した上で、「マスタープラン 2011」に盛り込まれた研究計画に対する評価を行い、「ロードマップ」に位置付けることとする。

【分化等による転換により「マスタープラン 2011」に追加された 5 計画】

分野	研究計画
エネルギー・ 環境・地球科学	衛星及び航空機を利用した地球観測システムの構築と大気海洋科学研究の推進 (衛星による全地球観測システムの構築)
	海洋環境保全を担う統合観測システムの開発と構築 (未来予測を目指した統合的な地球環境の観測・実験・モデル研究計画)
	太陽地球系結合過程の研究基盤形成 (同上)
	新統合国際深海掘削計画 (最先端技術で探る地球内部ダイナミクスと防災研究計画)
	海底地震・地殻変動観測網の整備と海陸地震火山観測に基づく地震発生及び火山噴火予測研究の推進 (同上)

※ 括弧内は「マスタープラン 2010」に盛り込まれた際の研究計画

③「マスタープラン 2011」から削除された計画（12 計画）

「マスタープラン 2011」から削除された計画のうち、一部予算化に伴い削除とされた 6 計画については、「ロードマップ」において現在推進中の研究計画として別途整理する。

「マスタープラン 2011」から削除されたその他の 6 計画については「ロードマップ」から削除する。

【「マスタープラン 2011」から削除された 12 計画】

	分野	研究計画
一部予算化 に伴う削除	生命科学	先進的医学研究のための遺伝子改変動物研究コンソーシアムの設立
	エネルギー・ 環境・地球科学	「エネルギー・環境技術国際研究拠点 (Solar Quest)」計画
		全地球生命史解読と地下生物圏探査計画
	物質・分析科 学	Bファクトリー加速器の高度化による新しい物理法則の探求
大型低温重力波望遠鏡計画 (LCGT)		
	宇宙空間科学	アストロ-H (ASTRO-H) 計画
その他	生命科学	グリーンイノベーション研究拠点の形成
	エネルギー・ 環境・地球科学	高温工学試験研究炉 (HTTR) を用いた高温ガス炉水素製造システム開発計画
		衛星による全地球観測システムの構築
		未来予測を目指した統合的な地球環境の観測・実験・モデル研究計画
		最先端技術で探る地球内部ダイナミクスと防災研究計画
情報学	超大型仮想統合ネットワークテストヘッド	

※上記①～③以外の「マスタープラン 2011」に引き続き掲載されている 31 計画については、評価結果は維持することとし、今回は評価を行わない。

なお、上記 31 計画については、各研究計画の検討の進捗状況を確認するため、ロードマップの改訂とは別に、アンケート調査を行うとともに、必要に応じて、ヒアリングを実施する。アンケート調査の結果等については、平成 24 年夏頃を目途にとりまとめ、日本学術会議にも情報提供を行う。

(2) 評価の方法

- 上記(1) ①及び②により、評価の対象とする研究計画に対する評価は、「ロードマップ」策定の際に設定した評価方法・観点により、分野ごとにヒアリングを行った上で審議を実施する。
- 評価の観点は、①研究者コミュニティの合意、②計画の実施主体、③共同利用体制、④計画の妥当性のほか、⑤緊急性、⑥戦略性、⑦社会や国民の理解を加えたものを設定し、個々の研究計画毎に全ての観点について3段階で評価を行うとともに、優れた点や課題等を整理。

3. 今後の予定

- 「マスタープラン 2011」で追加された 15 計画について、分野毎にヒアリングを実施。

分野	評価の対象となる研究計画数
人文・社会科学	1 計画
生命科学	5 計画
エネルギー・環境・地球科学	7 計画
情報学	2 計画

- 平成 24 年 3 月頃を目途に「ロードマップ」の改訂について取りまとめ。